

丹鶴叢書

草根集 一

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494755





丹鶴叢書

己酉帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻



草根集第一

草根和歌集ハ招月菴正徹老人の誅子一本茶菜なるかの

清巖

老人の誅子一本茶菜なるかの

あまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとて

あまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとて

あまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとて

あまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとてあまのつらきとて

丹鶴叢書



丹籙譜書  
 一八二

丹籙譜書  
 一八二

丹籙譜書  
 一八二

草根集

六十首 千首内

一夜百首

百首

初一念百首 祇園法樂

五時百首 同

百首 春日法樂

百首 日吉法樂

兩點五十首

百首 聖廟法樂

一日百首

百首 住吉法樂

一日三時百首 同

五十首 長谷寺法樂

傾證寺法樂詠六十首和歌

春

釋正徹

立 春の日のまはるけしむらさきもよもひのさかかへん

山領 峯美 霞松のさかひのさかひもよもひのさかかへん 一本

垣根残雪のほろのさかひのさかひのさかかへん

江 柳おなごのさかひのさかひのさかかへん

花 吉野のさかひのさかひのさかかへん

遠を帰鳥玉子のさかひのさかひのさかかへん

枕 春のさかひのさかひのさかかへん

春 月天のさかひのさかひのさかかへん

子鳥

春維思子  
野亭重

夏

郭  
菖蒲  
早苗  
夕  
蟬  
鳴

秋

三  
秋

秋

我似人來  
薄村  
槿不待夕  
露如玉  
虫亦幽  
廉  
月  
霧  
紫菊  
南北

子鳥

野 鴨

野鴨の鳴くは秋の聲の如し

紅葉の散るは秋の聲の如し

冬

時 雨

時雨の降るは秋の聲の如し

霜

霜の降るは秋の聲の如し

寒 草

寒草の生るは秋の聲の如し

冬 月

冬月の明るは秋の聲の如し

千 鳥

千鳥の鳴くは秋の聲の如し

細 代

細代の流るは秋の聲の如し

雪

雪の降るは秋の聲の如し

抄

炭 竈

炭竈の煙は秋の聲の如し

秋

初 意

初意の清きは秋の聲の如し

隱 意

隱意の深きは秋の聲の如し

怨 意

怨意の激きは秋の聲の如し

寄 意

寄意の切きは秋の聲の如し

寄 原 意

寄原意の切きは秋の聲の如し

寄 市 意

寄市意の切きは秋の聲の如し

寄 思 意

寄思意の切きは秋の聲の如し





詠五十首和歌

初 春 おもむくもあはれむしものさかしまはなれはなれ  
 雪中 鶯 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 橋 辺 霞 も ねのまのさかしまはなれはなれ  
 行 路 梅 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 春 月 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 月 の つらむ 深きまの 金玉  
 岸 柳 枝 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 旅 春 雨 かなんぬるさかしまはなれはなれ

さか

心鳥井云  
 香能法師のうたのうたを  
 社女くらむ

遠 帰 鳥 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 山 花 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 閑 花 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 庭 花 かなんぬるさかしまはなれはなれ

社女くらむ

河 敷 冬 春 も かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 社 弁 也 かなんぬるさかしまはなれはなれ  
 早 苗 多 かなんぬるさかしまはなれはなれ

丹鳥長書

里郭云 松風もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 園郭云 風もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 夜盧橋 船もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 露瞿麦 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 江 虫 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 秋 月 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 萩 露 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 萩 風 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 尋 虫 花もくまの里のたのけは娘のたのけは

さか

山家月 秋の上の月もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 望 經 月 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 舟 中 月 秋の上の月もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 曉 霧 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 河 霧 花もくまの里のたのけは娘のたのけは  
 擣 衣 函 花もくまの里のたのけは娘のたのけは

紅 葉 木の 間 秋 日 影 赤 秋 空 の 白 雲 一 一 一 一 一 一  
 残 菊 白 長 月 の 輝 の 暮 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 朝 時 雨 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 伴 霜 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 池 水 鳥 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 島 干 多 浦 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 松 雪 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 湖 雪 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 惜 歲 暮 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 寒 雲 意 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

寄 露 意 社 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 寄 煙 意 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 寄 草 意 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 古 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 寄 鳥 意 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 寄 枕 意 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 曉 迷 懷 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

丹鳥夢書

軍中 燈 何 ぬら びら ぼん ぼん ぼん の とし とも なる 燈 の かり  
ふか しく なる 燈 吉 東 山 舟 航 へ 海 へ 人

止 旅 崎 止 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ  
海 旅 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ

聖 旅 崎 止 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ  
寄 松 祝 洲 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ 舟 へ

左 點 冷 島 天 納 言 為 尹 卿 僻 桑 點 廿 二 言  
右 點 飛 鳥 井 中 納 言 為 桑 雅 點 廿 二 言

急 氷 廿 二 年 六 月 十 九 日 清 巖

廿 二 年 六 月

松 舟

詠一夜百首和歌

原本 五十一

千 松 末 葉 歌 正 徹

春 二十首

立 春 氷 彩 霞 舟  
初 春 霞 舟  
雪 中 染 菜 舟  
初 鶯 舟  
鶯 舟  
門 柳 宿 舟  
帰 雁 知 春 舟  
二 月 餘 言 舟

古の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月 志の春月  
 春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅 玉の春日遅  
 見花 見花 見花 見花 見花 見花 見花 見花 見花 見花  
 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花  
 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日 三月三日  
 款 款 款 款 款 款 款 款 款 款

松

松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤 松間藤  
 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二 三月廿二

夏 十

卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月 卯世似月  
 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭 待郭  
 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二 五月廿二  
 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨 庵五月雨  
 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草 夏草  
 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里

夜川并 水底よりくわくは鳥の鳴く声かきこえぬかきこえぬの歌  
遠夕立 しのぶかきこえぬ夕立の日の影をうらむる歌 ちりま  
樹陰納涼 あはれもなき夕立の夜に神と逢ふ歌のしほ

秋 二十首

神 秋風 涼をむくまはるる風をよみてはるるの歌  
初秋露 秋の露をよみてはるるの歌  
七夕後 初りぬるる夕立の車とあはれ秋の夕立  
秋 夕 夕の中をよみてはるるの歌 初一本  
秋 萩 萩の香をよみてはるるの歌  
朝 露 露の香をよみてはるるの歌

夕 薄 風をよみてはるるの歌  
山 初 馬 しのぶかきこえぬ夕立の日の影をうらむる歌  
田 家 麻 秋の露をよみてはるるの歌  
燈 亭 虫 虫の香をよみてはるるの歌  
嶺 月 月をよみてはるるの歌  
谷 月 月をよみてはるるの歌  
海 月 月をよみてはるるの歌  
湖 月 月をよみてはるるの歌  
閑 月 閑の月をよみてはるるの歌  
擣 衣 風 風をよみてはるるの歌

紅葉増雨 枝々おぬまをくまのこころをわすれしは葉を  
紅葉映日 秋の日のよさをかきかたしめしは木ありん  
暮秋露 清きくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
惜九月也 美し 月をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん

冬 十首

初冬時節 冬をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
風を吹葉 玉葉のあのをいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
庭 霜 冷きくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
冬 月 空をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
古屋霰 朝もよも月をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん

曉千鳥 小ねをいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
氷 氷をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
氷 氷をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
雪 雪をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
雪 雪をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
雪 雪をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん

恋 二十首

雲 雲をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
風 風をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
雨 雨をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん  
月 月をいそぐくもくもく林のこころをわすれしは木ありん

寄の煙急 あつ川のぬの煙きさきまのくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の山急 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の杜急 ぶくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の園急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の海急 ぶたふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の橋急 いつまたゆのかく根せくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の榎木急 名ふくのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の塔木急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の宿木急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の松木急 引かふきのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

松

寄の杉木急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の初草急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の夏草急 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の思草急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の下草急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の忘草急 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

雑 二十首

曉眠易覺 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 寄の地 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 名亦松 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

丹窩集



名取浦 石ころの松林よ招きよめしむののり同く  
 名取鶴 水の上の浪の音もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 野 風 一本の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 橋 雨 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 渡 船 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 旅 行 旅衣もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 旅 泊 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 山家路 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 山家鳥 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 田家煙 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ

丹雀書

旅 宿 如松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 獨 述 懷 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 先後述懷 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 往事如夢 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 神 祇 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 釋 教 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ  
 祝 言 水の上の松の影もよめしむの松林よ招きよめしむ

應永廿六年十月日 於小川上總今範政家  
 一夜詠之

丹鳥書

聖廟法樂詠百首倭歌

春 二十首

立 春 雪のしらむる日影のあはれみよのまはるる

巴下判詞一本以朱神文

たはりの河をさへし時流る

山 霞 けむりもあはれしうららかに霞のしらむる春の霧も

さしらけし霧の華もさし

海 霞 そとにけし霞のしらむる海もあはれしうららかに霞の

しらむる霞のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

子 日 引くる日のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

二葉のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

若 菜 社宮のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

さしらけし霞のしらむる霞の

朝 鶯 朝のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

朝のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

朝 梅 うつらむる朝のしらむる霞のしらむる霞の

如中流る霞のしらむる霞の

春 梅 春のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

あはれし霞のしらむる霞の

岸 柳 川原のしらむる霞のしらむる霞のしらむる霞の

よしらむる霞のしらむる霞の

春雨 この文句のまゝに 春の雨のまゝに

あつち西のやうかゝるを 春の雨のまゝに

春月 おもしろい 春の月

おもしろい 春の月

春曙 定めぬ 春の曙

ひさまゝ 春の曙

帰鴈 いづれか 春の鴈

かゝる 春の鴈

栽花 いづれか 春の花

いづれか 春の花

翫花 いづれか 春の花

いづれか 春の花

惜花 いづれか 春の花

いづれか 春の花

いづれか 春の花

春駒 いづれか 春の駒

いづれか 春の駒

款 いづれか 春の款

いづれか 春の款

紫 いづれか 春の紫

あーるる

暮 春

夏 十五

首 夏

あーるる  
あーるる  
あーるる

更 衣

あーるる  
あーるる

亦 也

あーるる

郭 々

あーるる  
あーるる  
あーるる

庭 橋

あーるる

早 苗

あーるる  
又一本

首 浦

千鳥集書

梅五月一本雨

古傳に依りてを殊勝なる

少のとも又川流もたれどいふれをそのさしれのは  
始中終殊勝なる又歌の字も社法樂の根  
まゝに感する

夕

立いづれもいづれもさしれ同なるさしれなるさしれのさしれ  
かゝるさしれのさしれもさしれなるさしれのさしれ

夏

草さしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
さしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

佛いづれいづれさしれさしれさしれ

夏

月いづれいづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

瞿

麦

玉いづれいづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

いづれ

氷

室

教いづれいづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

納

涼

日いづれいづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

夏

稜

糸いづれいづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ  
いづれさしれさしれさしれさしれさしれさしれさしれ

清くまろくたの洞つし優きもの

秋 二十首

早秋 夕涼みはあつし 螢の光もあつし 月もあつし 秋の秋の秋

下句 夷逸のまもろく しく 楽ん 肝

七夕 夕衣ニテの星の天つれは 秋の秋の秋

あまつむれは 秋の秋の秋

みづあつし 秋の秋の秋

稻妻 少年のたのまもろく 風は秋の秋の秋

くもあつし 秋の秋の秋

籬 萩 下句の秋の秋の秋

下句

秋の秋の秋

野 萩 秋の秋の秋

秋の秋の秋

路 薄 秋の秋の秋

あつし 秋の秋の秋

曉 露 秋の秋の秋

秋の秋の秋

秋の秋の秋

隣 槿 中垣の秋の秋の秋

秋の秋の秋



つゝ龍及九意。

嶺 月 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらんのり  
風 はなはら

湖 月 鳥の湖は月一はなはらぬ月のまむおほい月の  
まむおほい月のまむおほい月の

開 月 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらんのり  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

濱 菊 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

擣 衣 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

いさこの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

黄 葉 風 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

暮 秋 時 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

初 冬 十五 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん

時 雨 あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん  
あまの月の意を埋むらん月よかたなむらん



樹の梢を渡る鳥の影は  
さねの影をさしつゝ

落葉社と一木葉の雪を  
あかりを

枯 望み枯み半と埋む人  
まじいん

寒 芦 籬波はさき  
けし海こそよき  
くまあきよのか  
あきらまぬ心

ら

井 氷の井の氷  
かの井よ

千 鳥 何の鳥か  
ありは  
おし  
白地

鳥 鳥 何の鳥か  
あきらまぬ心

綱代

あつちのついでにやうなついでに

蜻蛉の命ハ海にまゐるゝ感候御被あはれ

ヤウリヤ

寒月

新雪の月のついでに

五のついでに御被あはれ

庭雪

雪のついでに御被あはれ

三徑の道に御被あはれ

かゝる御被あはれ

炭竈

炭のついでに御被あはれ

かゝる御被あはれ

埋火

火のついでに御被あはれ

土のついでに御被あはれ

土のついでに御被あはれ

水物とわたり

佛名

名のついでに御被あはれ

かゝる御被あはれ

業書

業書のついでに御被あはれ

かゝる御被あはれ

かゝる御被あはれ

變

十五

初

初 志 *あはれ*

*あはれ*

忠

忠 志 *あはれ*

*あはれ*

関

関 志 *あはれ*

*あはれ*

見

見 志 *あはれ*

*あはれ*

尋

尋 志 *あはれ*

*あはれ*

初

初 志 *あはれ*

*あはれ*

辨

辨 志 *あはれ*

*あはれ*

侍

侍 志 *あはれ*

*あはれ*

*あはれ*

過一本

過一本 志 *あはれ*

*あはれ*

別

別 志 *あはれ*

丹鳥書

子松



一ふ

離 舟 お茶 いろの羅とある新 茶 えて程をさむくとのくれ舟

さる体

羈 旅 かくちやうとてふ日々にあはれむるものも海と

たのむおむり

海 路 いろくち新あはれむるものも海と お茶 程

林縁の

出

野 宿 程とてあはれむるものも海と お茶 程

そ尾を

字林

古 銀 さくらとてあはれむるものも昔の友やきり

古体

よ

眺 望 かくちやうとてあはれむるものも海と お茶 程

事社

述 懐 いろくち新あはれむるものも海と お茶 程

そ尾を

懐 舊 いろくち新あはれむるものも海と お茶 程

依ん院

哀 傷 帯一本 いろくち新あはれむるものも海と お茶 程

きんぎょしあまのしんがうかろくさうていおおも  
とろく

蕭寺 ねつしんがうきんぎょしんがうのしんがう

平安城春山の昔内外護者共一首題  
目出交持揚々

瑞籬 神しんがうのしんがうのしんがうのしんがう

げいさのうけり二心根ろり半しんがう  
よるしんがうのしんがう神しんがうのしんがう  
えんがうしんがう

祝言 万代に流しんがうのしんがうのしんがうのしんがう

いりよもねえんがうのしんがうのしんがう

いんがうを同心する月あふ

應永廿七年二月十七日

巴下永正一ノ本以来補之  
万々しんがうのしんがうのしんがうのしんがう

應永廿一年正月十七日夜よる参籠同廿三日曉出

其間者經之眠過三夜之外見不便也

判者今川上徳介範永

永正六年三月三日写之乎 判

聖廟法樂詠百々倭哥

春 二十首

原本一ノ本不  
千松末葉親正徹

丹鳥養書

立春

霞

鶯

若菜

春雪

梅

柳

春雨

春月七月初七日

霞の空を染めて

鶯の聲を聞かす

若菜の芽をみれば

春雪の跡をみれば

梅の花をみれば

柳の葉をみれば

春雨の音を聞かす

帰鴈

春花

暮春

款

蘇

款

暮

春

雨

鳥

鴈が帰る時

花は春の光を浴びて

暮春の光を浴びて

款の光を浴びて

蘇の光を浴びて

款の光を浴びて

暮の光を浴びて

春の光を浴びて

雨の音を聞かす

鳥の聲を聞かす





萩 鴈 廉 秋 秋 月

萩の葉は秋の風を  
 鴈の聲は秋の空を  
 廉の影は秋の池を  
 秋の月 秋の夜  
 田の草は秋の露を  
 秋の月 秋の夜  
 萩の葉は秋の風を  
 鴈の聲は秋の空を  
 廉の影は秋の池を  
 秋の月 秋の夜  
 田の草は秋の露を  
 秋の月 秋の夜

虫

霧

擣

菊

紅

九月葉盡

冬 十五

時

落

葉

萩の葉は秋の風を  
 鴈の聲は秋の空を  
 廉の影は秋の池を  
 秋の月 秋の夜  
 田の草は秋の露を  
 秋の月 秋の夜

一本葉

丹鳥書

雲 草枯の如く 霜の如く 雪の如く 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪

雲 草枯の如く 霜の如く 雪の如く 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 草枯の如く 霜の如く 雪の如く 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 霜の如く 雪の如く 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 雪の如く 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 氷の如く 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 月 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 氷 鳥 千鳥 霰 雪  
 鳥 千鳥 霰 雪  
 千鳥 霰 雪  
 霰 雪  
 雪

鷹狩 炭竈 歲暮 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋

鷹狩 炭竈 歲暮 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 鷹狩 炭竈 歲暮 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 炭竈 歲暮 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 歲暮 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 寄風 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 寄雪 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 寄燈 寄杜 寄園 寄橋  
 寄杜 寄園 寄橋  
 寄園 寄橋  
 寄橋

無 二十

寄藤恋 我んあまの志こころ 藤の志はなほよほるらん 人かほ  
 寄藤恋 うらふれぬとて 藤の志はなほよほるらん 人の心  
 寄板恋 新うつる 汀の板の袖はなほよほるらん 人の心  
 寄鳴恋 花をいばるる 水はなほよほるらん 人の心  
 寄桔恋 あまの心はなほよほるらん 人の心  
 寄蛛恋 かまいたたのまに 板はなほよほるらん 人の心  
 寄渡恋 山鳥の心はなほよほるらん 人の心  
 寄枕恋 志をいばるる 水はなほよほるらん 人の心  
 寄送恋 心はなほよほるらん 人の心  
 寄衣恋 うらふれぬとて 藤の志はなほよほるらん 人の心

寄紐恋 心はなほよほるらん 人の心  
 寄弓恋 うらふれぬとて 藤の志はなほよほるらん 人の心  
 寄船恋 うらふれぬとて 藤の志はなほよほるらん 人の心  
 寄渡恋 心はなほよほるらん 人の心  
 雑 十首  
 暁 鶏 まるたかひの心はなほよほるらん 人の心  
 夜 燈 心はなほよほるらん 人の心  
 浦 杓 心はなほよほるらん 人の心  
 庭 竹 心はなほよほるらん 人の心  
 山 家 心はなほよほるらん 人の心

田家 少田平祐の御孫かきよの宮もあはらふあはらふ尾  
 羈 旅 ゆきももひのちちかきよの宮もあはらふあはらふ尾  
 眺 望 ほよあはらふあはらふあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 述 懐 神うけもあはらふあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 祝 言本 宮柱神のまじりし百年のあはらふあはらふあはらふあはらふ

永享元年十二月自七日夜参籠回十二日晓  
 退出社参看经之间之日詠之乎余云松  
 石くまふ見志也

松

詠一日百首和歌

一本ニリ  
釋正徹

春二十首

立 春 かきよの宮もあはらふあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 山 霞 さかぬのたつちあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 海 霞 さかぬのたつちあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 子 日 いのちのたつちあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 若 菜 けのたつちあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 朝 鶯 あはらふあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 朝 梅 枝本 あはらふあはらふあはらふあはらふあはらふ  
 夜 梅 袖のたつちあはらふあはらふあはらふあはらふ

丹鳥集書

岸 柳 帝冠川のほとり岸の柳はまろくまろくはらからかた  
 春 雨 はらばらと降るのまろくはらばらと降るのまろく  
 春 月 中もよほす月の中もよほす月の中もよほす  
 春 曙 めいめいとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 帰 鳥 とらりとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 哉 花 がはらばらとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 翫 花 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 惜 花 教もよほすあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 春 駒 程もよほすあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 歎 冬 女もよほすあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの

紫 藤 ぶらりとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 暮 春 けふあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 夏 十五  
 首 夏 葉もよほすあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 更 衣 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 卯 花 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 郭 公 ほららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 庭 橋 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 早 苗 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの  
 曾 浦 らららとあけぼのめいめいとあけぼのめいめいとあけぼの

梅 雨より望みの花の底のほろかすのさしらの  
 夕 立をよも風をよも花の日の影をよもさしの  
 夏 草なほくくつらさよあつたむすもりのさの露  
 夏 月の原をよも月のまへに花をよもさしの  
 瞿 麦をよもさし花をかへて露のさしむすもりの  
 氷 室のさしやのさしをよもさしのさしの  
 納 涼 かるさしの花のさしをよもさしのさしの  
 夏 枝 は後へのさしをよもさしのさしのさしの  
 早 秋 はさしをよもさし花をよもさしのさしの  
 秋 二十首

七 夕人のさしをよもさし花をよもさしのさしの  
 稻 妻風をよもさし花をよもさしのさしの  
 穉 萩をよもさし花をよもさしのさしの  
 聖 露をよもさし花をよもさしのさしの  
 路 薄をよもさし花をよもさしのさしの  
 曉 露をよもさし花をよもさしのさしの  
 夕 麻をよもさし花をよもさしのさしの  
 叢 虫をよもさし花をよもさしのさしの  
 初 鳥をよもさし花をよもさしのさしの  
 島 霧をよもさし花をよもさしのさしの

隣 槿 ねむるをそと舞あつた中垣のむのあまの霜のぬは  
 葛 風 秋風はくさくさのあつたかたのあまの霜のぬは  
 嶺 月 ちうと風のあつたかたのあまの霜のぬは  
 湖 月 清い月をみればあつたかたのあまの霜のぬは  
 園 月 影をみればあつたかたのあまの霜のぬは  
 濱 菊 しのほのあつたかたのあまの霜のぬは  
 擣 衣 しのほのあつたかたのあまの霜のぬは  
 暮 葉 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 秋 秋 秋のあつたかたのあまの霜のぬは

三ノ十

袖 冬 神なるい毎のむのあつたかたのあまの霜のぬは  
 時 雨 しのほのあつたかたのあまの霜のぬは  
 落 葉 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 枯 瓠 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 寒 蘆 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 井 氷 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 千 鳥 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 残 鳥 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 網 代 秋のあつたかたのあまの霜のぬは  
 寒 月 秋のあつたかたのあまの霜のぬは





奮鳥 海の... 枕... くさ...

雜十五首

山 家 まけ... 田 家 たけ... 閑 居 いん... 離 別 りべつ... 羈 旅 かき... 海 路 かい... 野 宿 のしゆく... 古 郷 こきやう...

眺 望 てうぼう... 述 懷 じゆわい... 懷 旧 わいじゆ... 哀 傷 あいしやう... 蕭 寺 しやうじ... 瑞 籬 ずいれい... 祝 言 しゆげん...

永享三年二月四日於畠山右馬持純表  
一日百首詠之



岸藤 住みのねむらむも夏のしほのたけのたけのたけ  
暮春雲 夕暮の雲のたけのたけのたけのたけのたけ

夏十五首

朝更衣 朝の更衣のたけのたけのたけのたけのたけ  
尋餘花 尋餘の花のたけのたけのたけのたけのたけ  
路外花 路外の花のたけのたけのたけのたけのたけ  
曉郭公 曉の郭公のたけのたけのたけのたけのたけ  
夕郭公 夕の郭公のたけのたけのたけのたけのたけ  
夜郭公 夜の郭公のたけのたけのたけのたけのたけ  
早苗 長日の早苗のたけのたけのたけのたけのたけ

簷盧橘

簷盧橘のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

五月雨

五月雨のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

夏夜

夏夜のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

夏月涼

夏月涼のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

杜夏子

杜夏子のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

橋 蛭

橋 蛭のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

河夕立

河夕立のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

六月抜

六月抜のたけのたけのたけのたけのたけのたけ

秋二十首

初秋

初秋のたけのたけのたけのたけのたけのたけ



初冬 庭を小枝 けしき 宿の葉 入の 色も さらさら けしき  
森美 杜時雨 つゆあつた さらさらの 杜の 影も さらさら けしき  
 山木枯 ろものかみ さらさらの 影も さらさら けしき  
芦美 篠霜 冬枯の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 葦間氷 さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 寒月 冬月の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 千鳥 さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 水鳥 さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 柏霰 さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 庭初雪 つゆあつた さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき

松雪 少人の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
景美 雪朝望 松葉の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 炭竈煙 雪と さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 神樂 さらさらの 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 年欲暮 宿毎の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 窓風 窓の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 窓煙 窓の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 窓雨 窓の 影も さらさらの 影も さらさら けしき  
 窓山 窓の 影も さらさらの 影も さらさら けしき

窓 十五

丹鳥書言

寄岡恋 あまのこころを 寄原恋 あまのこころを 寄松恋 あまのこころを 寄林恋 あまのこころを 寄藤恋 あまのこころを 寄鳥恋 あまのこころを 寄魚恋 あまのこころを 寄獸恋 あまのこころを 寄衣恋 あまのこころを 寄弓恋 あまのこころを

雜 十五首

寄糸恋 たのめうせふあまのこころを  
 古寺鐘 鐘の音のこころを  
 松作友 松の木のこころを  
 恋 竹 竹の木のこころを  
 徑 苔 苔の木のこころを  
 名取鶴 鶴の木のこころを  
 名取瀧 瀧の木のこころを  
 山家恋 山家の木のこころを  
 田里 田里の木のこころを

丹鳥養書

樵 夫 歳言くのもろくもろく松林小敷おろく休む山人  
 松川筏 川流ふ松山おろくたつたつてやむむ康々の茂士  
 旅 夕 やるれを月をゆるゆゆ松とてま川松おろくの夕暮  
 旅泊夢 船むむむむあなのととの風おろく多とやう打た  
 湖眺望 志がの浦一本やあなたるまのたはまうみゆる小鳥ふ急舟  
 釋 教 へるる十のさういあつてむむむのむふむむる  
 神 祇 多早松林のあなまは行か我り末とれたの子あり  
 永享十年六月七日謹以奉 祇園社子  
 右百首更不返初一念任淳心中卒余書付  
 了然間一首無一郎不可外見

そと

住吉法樂詠百首和歌

春 二十首

立 春 ふ砂の梢の風まうゆるまもる川あつのおかへりおね  
 山 霞 珠くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 海 霞 ころほのほくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 子 日 二葉きひま日のゆねまうつひあつて入人物を母の生末  
 若 菜 雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 朝 鶯 ねむくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 津 梅 総皮津のむくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 夜 梅 おんをふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

子鳥叢書

一本

岸 柳 早 しの ちの ちの 柳 の 下 柳 の 下 柳 の 下 柳 の 下 柳 の 下  
 春 雨 影 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 春 月 影 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 春 曙 雪 鳥 乃 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 帰 鳥 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 栽 花 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 翫 花 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 惜 花 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 春 駒 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 歎 冬 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの

紫 藤 色 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 暮 春 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの

夏 十五首

首 夏 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 更 衣 花 の ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 郊 花 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 郭 上 月 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 庭 橋 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 早 苗 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの  
 菖 蒲 ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの ちの



梅 雨 *Umeshi no Ame*  
 夕 立 *Yūdachi*  
 夏 草 *Natsu no Kusa*  
 夏 月 *Natsu no Tsuki*  
 瞿 麦 *Kikyo*  
 冰 室 *Hyōshitsu*  
 納 凉 *Noryō*  
 夏 萩 *Natsu no Hagi*  
 秋 二十 *Aki no Nijū*  
 早 秋 *Hayashi no Aki*

七 夕 *Shichiyū*  
 稻 妻 *Inuwake*  
 籬 萩 *Shiba no Hagi*  
 野 萩 *Yonohagi*  
 路 薄 *Michi no Usui*  
 曉 露 *Yūki no Tsuyu*  
 隣 槿 *Tonari no Kajiko*  
 葛 風 *Kumogata no Kaze*  
 夕 麻 *Yū no Asa*  
 初 鳥 *Hatsuyū*

叢 虫  
 嶺 霧  
 湖 月  
 南 月  
 濱 菊  
 搏 衣  
 黄 葉  
 暮 秋  
 冬 十五

初 冬  
 時 雨  
 落 葉  
 枯 聖  
 寒 芦  
 井 氷  
 十 鳥  
 残 馬  
 網 代  
 寒 月

丹鳥書

庭 雪 泣 づ け ん 人 あり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
 炭 竈 風 吹 け 燈 火 燃 せ ぬ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
 埋 火 垣 壁 ぞ 又 燃 せ ぬ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
 佛 名 ぞ 久 我 妻 女 の 伝 へ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
 暮 我 心 ぞ の め じ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

恋 十五

初 恋  
 忠 恋  
 聞 恋  
 見 恋

尋 恋  
 初 恋  
 邦 恋  
 待 恋  
 逢 恋  
 別 恋  
 頭 恋  
 稀 恋  
 絶 恋  
 怨 恋

奮 恋たてよふ程しよの思ふはたふてはたふてはたふて  
雑 十五

山 家世をいよしの風は信ふらくはかきよやなうしそ

田 家秋の雨よいまふる春のやうにありよ馬ははらふ衣

閑 居居る人よそははらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

籬 竹もはらふ籬も同じの舟も同じの衣も同じの衣

羈 旅旅のききよの信よ神よれいよ言紙ぬははらふ衣

海 路りふるよくおはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

野 宿やうれはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

古 郷くはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

眺 望 遠のよのよ葉はらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

述 懐 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

懐 奮 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

良 傷 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

蕭 寺 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

瑞 籬 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

祝 言 愛鳥のよのよ神よはらふ衣よはらふ衣よはらふ衣

永享十二年三月十七日奉詔 任吉社実前  
自同十日至廿一日四日之間看經順礼等行  
事前後詠出百首 河備法樂伏願不改今

丹鳥叢書

生信語之砥礫成當來佛果之金口以誼  
諸法 諸法實者音所祈則述懷奇詠之係任靈  
神 神恩覽者也而已此百首不返初一念心詞不  
用捨捨同殊以雖為一首每其風情更不可  
可及外是

住吉法樂詠百首倭歌

春 二十首

三 春つゝも又ちとよみそとくもはやくもなれはあはれも華

朝	霞	谷	残	若	里	春	春	春	春	春
霞	霞	鴛	雪	菜	梅	梅	月	曙	鳥	雨
霞	霞	鴛	雪	菜	梅	梅	月	曙	鳥	雨
霞	霞	鴛	雪	菜	梅	梅	月	曙	鳥	雨

岸 柳 なむかきかきあき人の心岸よりには行くは柳の心  
 侍 花 ら梅一本の匂おそくは梅の心  
 初 花 咲ぬかきくは梅の心  
 見 花 軒まきかきかき梅の心  
 花 盛 きも梅の心  
 落 花 けりあはれ梅の心  
 款 冬 人かきかき梅の心  
 池 藤 山の心  
 暮 春 人かきかき梅の心

夏十五

更 衣 けりあはれ梅の心  
 夕 花 ら梅の心  
 侍 郭 けりあはれ梅の心  
 聞 郭 けりあはれ梅の心  
 郭 稀 けりあはれ梅の心  
 古 郷 橋 けりあはれ梅の心  
 早 苗 けりあはれ梅の心  
 五 月 雨 けりあはれ梅の心  
 鶉 河 けりあはれ梅の心  
 叢 螢 けりあはれ梅の心

夏 草 露 草 露 草 露 草 露 草 露 草 露 草 露 草 露 草 露  
 夏 月 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白  
 夕 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立  
 杜 蟬 夕 風 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本  
 夏 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋  
 秋 二十ノ  
 早 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋  
 七 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕  
 萩 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風  
 萩 露 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

女郎花 女郎花 女郎花 女郎花 女郎花 女郎花 女郎花 女郎花  
 夕 虫 夕 虫 夕 虫 夕 虫 夕 虫 夕 虫 夕 虫 夕 虫  
 夜 鹿 指 鹿 指 鹿 指 鹿 指 鹿 指 鹿 指 鹿 指 鹿  
 初 鳥 村 鳥 村 鳥 村 鳥 村 鳥 村 鳥 村 鳥 村 鳥 村  
 秋 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕  
 山 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月  
 野 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月  
 河 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月  
 江 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月  
 浦 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

籬 兼 秋 多 じ の 名 好 じ じ じ 菊 の ち り ち り 菊 日 敷 け する  
 擣 衣 ぬ じ ぬ じ 菊 け じ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 曉 霧 三 鴨 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 罌 紅 茶 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 連 紅 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 九 月 盡 け け け け け け け け け け け け け け け け け

冬 十五首

初 冬 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 雨 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 落 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

月日葉

朝 霜 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 寒 草 同 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 千 鳥 け け け け け け け け け け け け け け け け け  
 水 鳥 鴨 鳥 の 氷 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
 氷 初 結 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 冬 月 雪 降 の 神 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 鷹 狩 物 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 雪 霰 様 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 積 雪 氷 け け け け け け け け け け け け け け け け け



閑中雪をふれはれをたのむの心半きも宿のまじり  
 歳暮人のまじりもまじりもまじりもまじりもまじりもまじり  
 戀十五

家月恋 一本葉 まつきのつきをみれば月影のまじり いしり葉

家雲恋 まつきのつきをみれば雲影のまじり

家露恋 まつきのつきをみれば露影のまじり

家雨恋 まつきのつきをみれば雨影のまじり

家海恋 まつきのつきをみれば海影のまじり

家山恋 まつきのつきをみれば山影のまじり

家橋恋 まつきのつきをみれば橋影のまじり

家草恋 一本 まつきのつきをみれば草影のまじり

家木恋 まつきのつきをみれば木影のまじり

家鳥恋 まつきのつきをみれば鳥影のまじり

家虫恋 まつきのつきをみれば虫影のまじり

家枕恋 まつきのつきをみれば枕影のまじり

家獸恋 まつきのつきをみれば獸影のまじり

家衣恋 まつきのつきをみれば衣影のまじり

雜十五

浦松 浪をみれば松影のまじり

窓 竹 赤くはるけき 同の地をこゝろ 心 暮るは 竹  
 山 家 嵐 雲 立ち けし けし けし けし けし けし  
 山 家 多 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法  
 田 家 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋  
 古 御 古 御 古 御 古 御 古 御 古 御 古 御  
 水 御 水 御 水 御 水 御 水 御 水 御 水 御  
 岸 路 岸 路 岸 路 岸 路 岸 路 岸 路 岸 路  
 海 路 海 路 海 路 海 路 海 路 海 路 海 路  
 羈 旅 羈 旅 羈 旅 羈 旅 羈 旅 羈 旅 羈 旅  
 述 懐 述 懐 述 懐 述 懐 述 懐 述 懐 述 懐

懐 奮 光 光 光 光 光 光 光 光 光 光 光 光  
 神 祇 住吉の神の心 住吉の神の心 住吉の神の心  
 釋 教 世の世 世の世 世の世 世の世 世の世 世の世  
 祝 言 法人の心 法人の心 法人の心 法人の心 法人の心  
 永享十二年十一月廿七日一夜中五時詠百首  
 住吉社法樂

住吉法樂詠百首和歌

春二十首

原本二一末了  
釋 正 徹

三 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

春	帰	春	春	簷	里	若	残	谷	朝
雨	鳥	曙	月	梅	梅	菜	雪	鶯	霞
二月の午 <small>お菜</small>	二月の午 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>

岸	侍	初	見	花	落	款	池	暮
柳	花	花	花	盛	花	冬	藤	春
三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>	三月の酉 <small>お菜</small>

夏十五

子鳥書言

更衣 更衣のころはあはれきりて人のあはれ衣り  
 甲花 甲花のあはれ月に入を待たぬまはらふらふ  
 侍時鳥 侍時鳥のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 閑村鳥 閑村鳥のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 郭と稀 郭と稀のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 古御橋 古御橋のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 早苗 早苗のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 五月雨 五月雨のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 鶺鴒川 鶺鴒川のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 叢虫 叢虫のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ

夏草 夏草のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 夏月 夏月のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 夕立 夕立のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 杜蟬 杜蟬のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 夏萩 夏萩のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 秋二十日 秋二十日のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 早秋 早秋のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 七夕 七夕のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 萩風 萩風のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ  
 萩露 萩露のあはれ月のあはれを待たぬまはらふ

女郎花 同  
 夕 虫  
 夜 麻  
 初 鳥  
 秋 夕  
 山 月  
 野 月  
 河 月  
 江 月  
 浦 月

籬 菊  
 擣 衣  
 曉 霧  
 蜀 紅葉  
 連 紅葉  
 九 月 盡  
 冬 十 五  
 初 冬  
 時 雨  
 落 葉

朝霜 冬の雪の社の新葉の  
 寒草 人の枯葉の岸の波の  
 千鳥 冬の小鳥の空の  
 水鳥 冬の水鳥の海の  
 氷結 冬の小鳥の空の  
 冬月 冬の小鳥の空の  
 鷹狩 冬の小鳥の空の  
 野霞 冬の小鳥の空の  
 浅雪 冬の小鳥の空の  
 積雪 冬の小鳥の空の

閑中雪 冬の中雪の  
 歳暮 冬の中雪の  
 冬月 冬の中雪の  
 冬雪 冬の中雪の  
 冬霞 冬の中雪の  
 冬雨 冬の中雪の  
 冬山 冬の中雪の  
 冬園 冬の中雪の  
 冬海 冬の中雪の

冬月 冬の中雪の  
 冬雪 冬の中雪の  
 冬霞 冬の中雪の  
 冬雨 冬の中雪の  
 冬山 冬の中雪の  
 冬園 冬の中雪の  
 冬海 冬の中雪の

家橋迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家木迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家子迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家鳥迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家虫迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家獸迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家枕迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 家衣迄 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に

雜 十五

浦 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に

意 竹 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 山 家 水 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 山 家 嵐 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 田 家 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 古 郷 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 水 郷 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 園 路 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 海 路 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 羈 旅 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に  
 述 懐 松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に松尾の山に

懐奮 なるこころを七日を休む十日を休むやうけむ  
 神祇 いろねんりぬのあしをゆくもまことうけむい  
 祝言 公民もやそんけいしんごころをよき事せむの  
 言

自文安六年三月廿三日 泰寵侍 住吉神前  
 一日三時詠之自廿四日夕方十五日詠廿五日  
 依他事一向不詠廿六日二十首詠之廿七日  
 廿五日詠終彼是一日三時百首也

侍春日社寶前詠百首和歌

春二十首

立春風 二月三日立春の日のふりもかむく松風の  
 霞春衣 春の霞もさむくもさむくもさむくのあふ  
 渡霞 新あけの雲のうはかりけし風をほくく舟人  
 求若菜 春のたぐはくのきくのほろふくもすれのみえぬく  
 河邊寫 川のほとりあはれもさむくもさむくのたぐはく  
 餘寒月 乙津風をさす月の氷もさむくもさむくのあ  
 若木梅 春のさむくもさむくもさむくもさむくのあ  
 江柳 氷くさのあはれもさむくもさむくのあ

冊鳥叢書



磯春草 源はよむ 磯春草の源はよむ 磯春草の源はよむ  
 牧春駒 杜のついでに 民も春駒のついでに 民も春駒のついでに  
 海帰鳥 春をよむ 春をよむ 春をよむ 春をよむ  
 待 花 さびしき 待 花 さびしき 待 花 さびしき  
 交 花 くらげの 交 花 くらげの 交 花 くらげの  
 花挿頭 をあはれ 花挿頭 をあはれ 花挿頭 をあはれ  
 山家花 山家の 山家花 山家の 山家花 山家の  
 落 花 ちりちり 落 花 ちりちり 落 花 ちりちり  
 澤春雉 秋の 澤春雉 秋の 澤春雉 秋の  
 歎冬盛 井の 歎冬盛 井の 歎冬盛 井の

岸 藤 暮春雲 夏十五首

朝更衣 尋餘花 路如花 曉郭公 夕郭公 夜郭公 早 苗

野鳥書

簷廬橋 白すきむりの社のあやこも橋の影の志はくそ  
 五月雨 晴りゆくかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 夏夜 さつちやかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 夏月涼 秋もよむかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 杜夏草 柏木の枝の影にさすかきくねの影にさす  
 橋 虫 くらひねの影にさすかきくねの影にさす  
 河夕三 梓らあかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 六月枝 なかきくねの影にさすかきくねの影にさす

秋二十首

初秋衣 多しねの影にさすかきくねの影にさす

七夕霧 たらむき妻連舟の影にさすかきくねの影にさす  
 古御露 かきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 萩破夢 めいひりさきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 行路萩 ちかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 原 薄 むきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 蘭薰風 ばの影にさすかきくねの影にさす  
 野 虫 せいの影にさすかきくねの影にさす  
 遠初馬 ちかきくねの影にさすかきくねの影にさす  
 田 鹿 小山の影にさすかきくねの影にさす  
 嶺 月 くらひねの影にさすかきくねの影にさす

松間月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月  
 龍邊月 川原の月 川原の月 川原の月 川原の月 川原の月 川原の月 川原の月  
 古屋月 古き月 古き月 古き月 古き月 古き月 古き月 古き月  
 遠月 遠く月 遠く月 遠く月 遠く月 遠く月 遠く月 遠く月  
 聞擣衣 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月 ねむる月  
 秋夜長 秋の夜長 秋の夜長 秋の夜長 秋の夜長 秋の夜長 秋の夜長 秋の夜長  
 谷 谷の月 谷の月 谷の月 谷の月 谷の月 谷の月 谷の月  
 山紅葉 山紅葉の月 山紅葉の月 山紅葉の月 山紅葉の月 山紅葉の月 山紅葉の月 山紅葉の月  
 暮秋露 暮秋の露 暮秋の露 暮秋の露 暮秋の露 暮秋の露 暮秋の露 暮秋の露

冬十五首

初 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬  
 杜時雨 杜時雨の月 杜時雨の月 杜時雨の月 杜時雨の月 杜時雨の月 杜時雨の月 杜時雨の月  
 木 木の月 木の月 木の月 木の月 木の月 木の月 木の月  
 篠 篠の月 篠の月 篠の月 篠の月 篠の月 篠の月 篠の月  
 芦間氷 芦間の氷 芦間の氷 芦間の氷 芦間の氷 芦間の氷 芦間の氷 芦間の氷  
 寒月 寒月の月 寒月の月 寒月の月 寒月の月 寒月の月 寒月の月 寒月の月  
 千鳥 千鳥の月 千鳥の月 千鳥の月 千鳥の月 千鳥の月 千鳥の月 千鳥の月  
 河水鳥 河水鳥の月 河水鳥の月 河水鳥の月 河水鳥の月 河水鳥の月 河水鳥の月 河水鳥の月  
 柏霰 柏霰の月 柏霰の月 柏霰の月 柏霰の月 柏霰の月 柏霰の月 柏霰の月  
 庭初雪 庭初雪の月 庭初雪の月 庭初雪の月 庭初雪の月 庭初雪の月 庭初雪の月 庭初雪の月

杣 雪 燐の...  
 雪 朝 望 か...  
 炭 竈 煙 雪...  
 神 樂 春...  
 年 欲 暮 清...

卷十五

家 風 志...  
 家 烟 志...  
 家 雨 志...  
 家 山 志...

家 岡 志...  
 家 原 志...  
 家 松 志...  
 家 柳 志...  
 家 藻 志...  
 家 鳥 志...  
 家 虫 志...  
 家 獸 志...  
 家 衣 志...  
 家 弓 志...

安系志 生約山等の海の事記したる并の事記せし  
雑十五巻

古寺鐘 おぼよき鐘の音に  
松作友 祐成の鐘の音に  
窓 竹人の鐘の音に  
徑 苔の鐘の音に  
名所鶴 かの鐘の音に  
名所瀧 かの鐘の音に  
山家水 かの鐘の音に  
田里 かの鐘の音に

樵 夫の鐘の音に  
杉川筏 かの鐘の音に  
夕 旅の鐘の音に  
旅 泊夢の鐘の音に  
湖眺望 かの鐘の音に  
釋 教の鐘の音に  
神 祇の鐘の音に

寛徳三年四月廿日夜 春日御社寛前参籠  
同廿一日詠此百首初る同廿五日終功其間毎日



夏五首

郭かくととかかららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 五月雨ごごふりふふららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 夏草なつくさああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 螢蛍ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 納涼なつりやうああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 秋十首  
 初秋はつあきああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 露露ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 霧霧ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず

草花くさなああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 鴈雁ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 鹿鹿ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 月月ああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 擣衣うしなああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 紅葉もみぢああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 九月くがつああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 冬ふゆああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 時雨ときふりああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず  
 寒草さむぐさああららななららずずななららずずななららずずななららずずななららずず

丹鳥叢書

氷 水 雪

鳥 十

忍 侍 逢 久 夏 別

忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別  
忍 侍 逢 久 夏 別

遇不逢 恨 思 絶

雜 十

曉 夕 松 竹 山

曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山  
曉 夕 松 竹 山



眺望

望 志あやむの入りよるのわづらひのそら

旅

旅 ながさくあつて人のあまほにいふ世に七夜と寝ていふらん

寺

寺 初瀬川あふくをわづらひつゆらの縁へあそびていふらん

懐

懐 昔のけしきをみるあまほにいふらんそらにぬきまをらすらん

神

神 祇 けしきのあまほに神よまをいふらんそらにぬきまをらすらん

寶徳三年四月二日 長谷寺七ヶ日参籠經  
云治世語言資生業亦皆順正法与伏願以  
大聖慈悲方便如此雖為踈言他論之詞改真  
如實相之躰頓成佛果利衆生拙者心中結偈

侍日吉社寶前詠百首和歌

春 二十首

立 春 春なるもの日吉の影をいふらんそらの神さし清かに  
霞 けしきより緑をいふらんそらの大ねはあそびていふらん

春なるもの影をいふらんそらの神さし清かに  
けしきより緑をいふらんそらの大ねはあそびていふらん



夏月 四月の玉の露のまじりて  
 五月雨 五月の雨のまじりて  
 盧橘 昔の橘のまじりて  
 螢 夕立のまじりて  
 納涼 涼のまじりて  
 秋 秋のまじりて

秋二十首

七 夕 夕のまじりて  
 露 露のまじりて  
 萩 萩のまじりて  
 薄 薄のまじりて  
 秋 秋のまじりて  
 虫 虫のまじりて  
 鹿 鹿のまじりて  
 初 初のまじりて  
 月 月のまじりて

秋を帯もさけり月の光をけり桂をいりあはせり  
 秋の帯もさけり月の光をけり桂をいりあはせり  
 中をいり七十一の秋の月影をいり桂をいりあはせり  
 世をいりあはせりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 搏衣の余をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 霧の影をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 紅葉の影をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 九月盡 月影をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 冬十首

初冬をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 時雨をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 落葉をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 冬月をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 霰をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 雪をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 千鳥をいりあはせりあはせりあはせりあはせり  
 歳暮をいりあはせりあはせりあはせりあはせり

意二十首

初 意 初の心も初の情も初の思も初の言も初の行も  
 思 意 思ふ心も思ふ情も思ふ思も思ふ言も思ふ行も  
 不 達 意 不達心も不達情も不達思も不達言も不達行も  
 待 意 待たぬ心も待たぬ情も待たぬ思も待たぬ言も待たぬ行も

初 達 意 初達心も初達情も初達思も初達言も初達行も  
 曉 別 意 曉別心も曉別情も曉別思も曉別言も曉別行も  
 逢 不 達 意 逢不達心も逢不達情も逢不達思も逢不達言も逢不達行も  
 言 意 言ふ心も言ふ情も言ふ思も言ふ言も言ふ行も  
 恨 意 恨む心も恨む情も恨む思も恨む言も恨む行も

雜 二十

曉 松 竹 山 河 橋 岡 旅

Handwritten musical notation for the first page, consisting of ten staves of notes and rests.

海 山 田 述 夢 神 親

路 家 家 懷 家 祇 教

Handwritten musical notation for the second page, consisting of ten staves of notes and rests.

祝

言

法の師の契結くわいけつハ 於おく世よも業ごうえハ 寺てらももん

秘ひくくハ 物ものハ 中ちゆうののハ 心こころハ 心こころハ

神かみととハ 心こころととハ 心こころととハ

心こころハ 阿あ耨う耨う耨う耨う

享德二年三月六日申時参籠 日吉大宮彼岸

所則誄此百首以至法樂七日赤日之間今日六

日夕卷頭以下四五首誄之自七日至九日間依

有物忌之子細不事行雖然九日入夜誄終早

一首更不得風情只敬信計也仍早業不可

外見而已

